

午後 試験

問 1

出題趣旨

事業の展開や変革に伴う情報システムの整備は、これまで自社システムの構築によるものが圧倒的に多かったが、近年アウトソーシングや ASP など、外部の専門的なサービスの充実によって、新たな選択の可能性が広がってきている。

本問は、利用部門として、経営的視点から、事業とのかかわりにおいて当該情報システムの位置付けや投資対効果、準備期間、将来にわたる拡張性や柔軟性、自社でのノウハウ蓄積の必要性など、選定の基準を具体的に示し、どう評価し、選定したかの論述を求めている。選択の方法や手順だけの論述は、出題趣旨にそぐわない。

本問では、論述を通じて、上級システムアドミニストレータに求められる、受験者の経験に裏打ちされた分析能力、評価能力、改善策立案能力及び洞察力や解決に向けた主体性を評価する。

問 2

出題趣旨

情報システムの更改において、ソフトウェアパッケージを利用する方式が増加している。経営上の判断や全体最適の視点もかかわることがあり、利用部門では自社開発以上の困難に直面することがある。知恵と工夫によって、この困難を乗り越え、目標とする効果をどのように実現させるかは大きな課題である。

本問は、ソフトウェアパッケージの利用において、それまでに利用部門が検討してきたあるべき姿との間で生じた差異及び直面した問題を述べた上で、業務プロセスや処理ルールの見直しなど、解決内容の具体的な論述を求めている。システム構築の視点から、利用者のニーズに対してシステムの対応範囲をどう調整したかの論述は、出題趣旨にそぐわない。

本問では、論述を通じて、上級システムアドミニストレータに求められる、受験者の経験に裏打ちされた分析能力、状況対応力、洞察力、改善策立案能力、及び問題解決に向けた主体性やリーダーシップを評価する。

問 3

出題趣旨

業務改善を実施する場合は、企業に蓄えられているデータや、新たに収集したデータを分析し、現状の業務の問題点を正確に把握した上で、取り組むべき課題を設定して業務の改善策を立案・推進することが求められる。

本問は、所属部門における業務改善の経験を基に、現状の問題点を把握するために活用したデータとその分析結果、及び実施した改善策とその効果について、具体的な論述を求めている。現状分析にデータ活用を伴わない業務改善やシステム視点からの論述は、出題趣旨にそぐわない。

本問では、論述を通じて、上級システムアドミニストレータに求められる、受験者の経験に裏打ちされた業務改善のための分析能力、データ活用能力、改善策立案能力、及び問題解決に向けた主体性やリーダーシップを評価する。